

17 担い手や後継者育成について認定農業者と考える

- あわら市認定農業者会と「食料・農業・農村基本法見直し」や「担い手育成、確保」をテーマに意見交換を行い、認定農業者の現状と課題を整理し、地域農業の発展を目指す。

○ きっかけ

あわら市認定農業者会は毎年の総会の後に勉強会を実施しており、その勉強会の席でJ-クレジット制度の説明とあわせて意見交換を実施することとなった。

意見交換は、食料安定供給の基礎となる地域農業の現状と課題解決を目的に開催した。

○ 取組の概要

出席した認定農業者（40名）のうち、水稻、園芸、法人、集落営農等の経営形態ごとに選出された代表者8名を中心に、経営の状況、課題及び担い手育成等のテーマについて意見交換を行った。

（園芸農家2名、水稻農家6名のうち集落営農法人2名、法人4名）



令和6年2月1日 あわら市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 地権者は農地を預けるだけで、草刈り等農作業への参加には消極的である。
- ・ 人件費が高騰する中、担い手育成、新規就農につながる雇用就農への更なる支援が必要。
- ・ 農業は、既存の施設や農地を利用し就農することで、他業種に比べて経営リスクを抑えた起業が可能。
IT化が進んだ農業現場や「儲かる農業」など、サラリーマンと比較しての就農の魅力発信が必要。
- ・ J-クレジットを活用した中干し延長に興味がある。
- ・ 農作業の省力化を一層進め、従業員一人当たりの耕作面積を増やすことでの経営の向上を目指す。
- ・ 肥料や農薬を適切な使用量とするためには、ほ場ごとの土壌状況を把握しておく必要がある。